

科目名	家族アセスメント/インターベンション学 Discussions on Family Assessment and Intervention
授業形態	講義(30%)、演習(70%)
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春学期 C 水曜日3~6 (他曜日への振り替えあり。各回、受講生と協議の上変更の可能性あり)
実施場所	共同利用棟B205
単位数	2単位
担当教員名	涌水 理恵 Wakimizu Rie 大宮 朋子 Omiya Tomoko 川野 亜津子 Kawano Atsuko 阿部 吉樹 Abe Yoshiki 伊藤 智子 Ito Tomoko 小澤 典子 Ozawa Noriko 菅谷 智一 Sugaya Tomokazu 山下 美智代 Yamashita Michiyo 非常勤講師: 児玉 久仁子 Kodama Kuniko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めないが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riwaki@md.tsukuba.ac.jp 大宮 朋子 toomiya@md.tsukuba.ac.jp 川野 亜津子 akawano@md.tsukuba.ac.jp 伊藤 智子 tito@md.tsukuba.ac.jp 阿部 吉樹 ayosh@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp 菅谷 智一 sugaya@md.tsukuba.ac.jp 山下 美智代 m-yamashita@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)いくつかの領域において、支援を必要とする家族の事例を題材に、家族員の疾病・障害に対する診断・治療を理解し、説明することができる (2)いくつかの領域において、支援を必要とする家族の事例を題材に、家族の健康および家族の生活についてアセスメントすることができる (3)事例の展開を通して、家族員の疾病・治療の過程を踏まえて、家族をアセスメントし、家族に対する具体的な看護介入の内容や技法を検討することができる (4)家族アセスメント・家族カウンセリング・家族療法に関する知識や技術、またその活用方法について理解し説明ができる
他の授業科目との関連	家族生活アセスメント学、家族看護実践学
履修条件	なし
授業概要	家族員の健康障害に対応した高度看護実践を提供するために家族看護における看護職者の役割と援助姿勢について理解したうえで、事例を通していくつかの特徴的な家族の「機能」「構造」「成長・発達区分」のアセスメントおよび家族員の健康レベルの査定を行う。また、家族員の疾病・障害に対する診断・治療を理解し、治療に参画をしながら、家族の潜在的・顕在的問題である家族症候を特定して、家族看護過程を展開していく。
キーワード	家族のアセスメント、家族療法、家族看護介入
授業計画	1 (5/22)(家族カウンセリング、家族療法1)(児玉・涌水) 2 (5/22)(家族カウンセリング、家族療法1)(児玉・涌水) 3 (6/19 2限)(家族アセスメント/インターベンション学の概説)(涌水) 4 (6/19 3限)(家族看護における看護職者の役割と援助姿勢/家族のアセスメント)(涌水) 5 (6/19 4限)(家族症候のアセスメントと家族看護過程:外来)(涌水) 6 (6/19 5限)(外来通院をしている患者家族の看護介入の事例検討)(涌水) 7 (6/26 5限)(家族症候のアセスメントと家族看護過程:ウィメンズヘルス領域)(川野) 8 (6/26 6限)(ウィメンズ領域の家族看護介入の事例検討)(川野) 9 (7/3 4限)(家族症候のアセスメントと家族看護過程:地域領域)(大宮) 10 (7/3 5限)(地域領域の家族看護介入の事例検討)(大宮) 11 (7/10 4限)(家族症候のアセスメントと家族看護過程:小児がん・ターミナル)(小澤) 12 (7/10 5限)(小児がん・ターミナルの患者家族介入の事例検討)(小澤) 13 (7/17 4限)(家族症候のアセスメントと家族看護過程:成人・急性期)(山下) 14 (7/17 5限)(成人・急性期における家族看護介入の事例検討)(山下) 15 (7/24 4限)(家族症候のアセスメントと家族看護過程:成人・慢性期(阿部)) 16 (7/24 5限)(慢性疾患患者家族の看護介入の事例検討)(阿部) 17 (7/31 3限)(家族症候のアセスメントと家族看護過程:在宅領域)(伊藤) 18 (7/31 4限)(在宅領域における家族介入の事例検討)(伊藤) 19 (7/31 5限)(家族症候のアセスメントと家族看護過程:精神領域)(菅谷) 20 (7/31 6限)(精神領域の家族看護介入の事例検討)(菅谷)

<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	<p>講義(9時間)、演習(21時間) 事前に課題を行い、プレゼンテーションの準備およびクリティークの準備を万全にして授業に臨む。 毎回プレゼンテーションをしたのち、ディスカッションを実施する。 授業外でも、学生同士で授業内容の活用方法の討論を活発におこない、日頃から関連文献を検索・精読し、授業内容について、積極的に思考する態度をもつ。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>15コマ以上の出席と最終評価が60点以上が単位主要要件である。 成績評価方法および評価配分は以下の通り。毎回、プレゼンテーション(50%)、ディスカッション(50%)で、到達目標の達成度を以下の基準に基づいて判定し、全20回分の平均をとって成績を評価する。 評価基準は以下の通り。 到達目標の1～3を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。 到達目標の1～3を指導に従って大旨達成できていると判断されればB以上と判定する。 到達目標の1～3について優れていると判断され、4が達成できていると判断されればAと判定する。</p>
<p>教材・参考文献・配布資料等 その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)</p>	<p>随時紹介・随時配布する。 やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠席とみなす。</p>